

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の特徴や使い方に関する事項について苦手な児童が多い。 ・書いた文章を推敲する力が不十分である。 ・国の実態と比べると国語が非常に苦手だと思われる児童の数が多い。 ・児童の国語の授業への興味関心が低い。 ・話を正確に聞き取る力や、伝えたいことを整理して話す力が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい物語や説明文を学習する際に言葉の意味調べをしたり、知らない言葉が出てきたときには辞書で調べさせたりする。また、言葉に関する掲示物等を校内に設置し興味をもたせる。 ・作文や日記、短文づくりに取り組む中で文章力を育む。 ・苦手な児童が取り残されないように個別に支援をしながら確実に基礎基本を定着させる。 ・児童が意欲をもって学習に取り組めるように、学習の目的を意識させて授業に望ませる。 ・朝のスピーチを行い、話す力・聞く力を育む。 	○
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の読み取りや資料を関連付けて考える力に個人差がある。 ・社会的事象に興味関心をもつ児童が少ない。 ・ICTを活用した調べ学習やまとめる活動に個人差がある。 ・地理的分野の知識の定着が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の資料から事実を読み取り、その事実から課題や工夫、努力を読み取らせる。グラフ資料の読み方を指導する。 ・新聞やニュースの時事問題などを随時取り上げていく。また、児童のICT機器の活用を高めるために、学年で指導方法を共有することで、どの児童も同様に活用できるようにしていく。 ・地図帳やICTのマップ機能の積極的に活用する。 	○
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題で問われていることの意味を理解し、テープ図や数直線図に書き表すことに苦手意識をもつ児童が多い。 ・九九の暗記が不十分な児童が各学年複数いる。その結果、かけ算やわり算の筆算を正確に解くことが難しい。 ・大きな数の筆算における繰り上がり、繰り下がり計算ミスが見られる。 ・単位変換の問題が苦手である。 ・小数の計算問題において、0の消し忘れや小数点の付け忘れなどのミスが目立つ。 ・図形において完成図のイメージをもつことに課題がある児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図などに書き表すことの必要感をもたせ、文章問題を解く際に図を用いて立式できるよう指導する。 ・必要に応じて九九カードを活用したり、計算練習に取り組む時間を確保したりする。計算ミスに自分で気付けるよう、検算の重要性を確認する。 ・4桁以上の数では、位取りを意識させる発問を行う。また、位取り表を書くことを意識できるように言葉掛けをする。 ・単位を扱う問題では、視覚的に理解できるように具体物を用いたり、数直線や図を活用したりして指導をする。また、単なる暗記ではなく「もとにする数」の何倍か、何分の一なのか、という考え方ができるよう指導する。 ・児童用タブレットのデジタルコンテンツや具体物を用いて、完成図のイメージをもてるようにする。 	○
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の場面において、器具の正しい扱い方やデータの測定に課題がある。 ・実験結果から考察する場面において、関係付けて考えることができない児童が多い。 ・理科の用語を正しく覚え、用いることができない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験方法を演示したり動画で示したりして、視覚的に理解できる工夫をする。 ・考察の場面では、選択肢を示したり穴埋め形式で示したりして、考察の書き方に徐々に慣れさせる。 ・小単位ごとに小テストを行ったり、単元末にプレテストを行ったりして児童の知識の定着を都度確認する。 	○

生活	<ul style="list-style-type: none"> ・自然体験や生活経験が不足している児童が増えている。 ・課題に対して調べたり気付いたりしたことを分かりやすくまとめる表現力に課題がある児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察活動を行い、記録を基に変化や違い、プログラミング思考の元となる順序に気付くような活動を取り入れる。 ・デジタル教材を活用して観察活動の観点を示す。気付きの質が高まるよう、国語等との関連を図り、まとめるときの表現方法としてカードを工夫する等、具体的に示す。 	○
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの音を聴きながら、響き（音色）を合わせて演奏することが難しい。 ・協働的に曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、表現に生かすところには至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な活動を通して重なり的美しさを感じ取らせたり、グループやペア学習の中で聴き合う場を多く設定したりする。 ・考え方や感じ方を広げ深め合う学習活動を設定し、曲想と音楽の構造との関わりに気付かせながら、友達と協力して音楽表現に必要な技能を身に付けられるようにする。 	○
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・素材や与えられたものを見て触って感じ取らせて、児童が想像することができる様になった。「情報収集」・「整理分析」という事が感覚的にできる様になった。 ・令和6年度に設定した「課題設定」「情報収集」「整理分析」「作品まとめ」という4つの授業セクターにおいて、児童が主体的に「課題設定」と「作品まとめ」をすることについて達成できていない。 ・高学年になると作品を作る過程で、仕組みを考えたり工程を考えたりする必要がある課題もある。そこで時間内に作品を完成させることや、授業内で何をやるのかが自覚できている児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・素材や与えられたものから感覚的にイメージをしながら主体的に授業を行う指導は続けるが、「作品の設計図」を書かせて児童が主体的に授業を行えるようにもする。そのために「作品イメージ図」・「必要な材料」・「与得られた時間数の中で、毎時間何をするか」を記入するカードを作り主体的な行動を促す。 ・そのカードをオクリンクなどで集計し児童が主体的に授業に参加しているかを見とれるようにする。 ・課題のある児童に対して一緒にアイディアを出したり、話を聞いて思考を整理させて寄り添いながら指導する。 	○
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・調理や裁縫など、基本的な技能について経験不足な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・映像教材や実写画像を活用しながら、実践的な活動を取り入れていく。 ・学習を通して身に付けた力を生かし、家庭生活で実践できる課題を設定する。 	○
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・領域によっては運動経験が乏しく、思うように活動できない児童や、取り組むことに消極的な児童がいる。 ・自己の能力や運動の特性に応じた課題解決の方法を考えられるように指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の特性を把握し、安全かつ楽しく運動できるように教材や教具(タイムシフトカメラや学習カードのICT化)など取り組みやすい工夫を行う。 ・学習カードや個別の声掛け等で、児童が自身の活動を振り返り、具体的な目標設定をしていくなど自己評価できるようにする。 	○
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや気持ちなどを積極的に伝え合うことが苦手である。 ・ローマ字の大文字・小文字を正しく書けない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な生活の中におけるコミュニケーションの場を想定して会話を楽しんだり、基本的な表現を使ったりする。 ・音声で十分に慣れ親しんだ後、ローマ字や英単語を書き写す活動に繰り返し取り組む。 ・タイピング練習を宿題等で出し、ローマ字の定着を図る。 	○